

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平5-11907

(43)公開日 平成5年(1993)2月19日

(51)Int.Cl.⁵

A 6 1 B 5/14
G 0 1 N 1/10

識別記号

3 0 0 A 8932-4C
N 7708-2 J

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 4 頁)

(21)出願番号 実願平3-67722

(22)出願日 平成3年(1991)7月30日

(71)出願人 000248428

有限会社佐藤化成工業所
栃木県今市市岩崎1471番地

(72)考案者 佐藤 役男

栃木県今市市岩崎1471番地

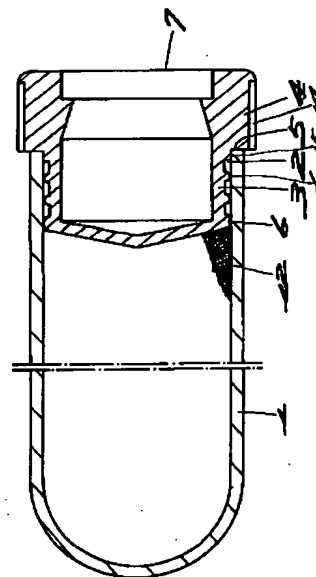
(74)代理人 弁理士 杉山 泰三

(54)【考案の名称】 採血管

(57)【要約】

【目的】 採血管本体1の内周面上縁と栓部3の外周面との間にゴミやバイキンが入り入り込まないようにする工夫及び密封性が半減しないようにする工夫を施した採血管を提供することを目的とする。

【構成】 採血管本体1の開口部2内に抜挿自在の栓部3と、栓部3の上端部の外周に突設した指掛用鐐状部4と、鐐状部4の下面に形成した採血管本体1内への陥入阻止用段部5と、栓部3の外周面の最上縁に周設した無端環状の突条15とより構成されたキャップ7をもつものである。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 採血管本体1の開口部2内に抜挿自在の栓部3と、栓部3の上端部の外周に突設した指掛用鐔状部4と、鐔状部4の下面に形成した採血管本体1内への陥入阻止用段部5と、栓部3の外周面の最上縁に周設した無端環状の突条15とより構成されたキャップ7をもつことを特徴とする採血管。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案に係わる採血管の第1実施例を示す斜視図である。

【図2】 図1 A-A線に沿う断面図である。

【図3】 第2実施例を示す斜視図である。

【図4】 図3 B-B線に沿う断面図である。

2

* 【図5】 従来の採血管を示す断面図である。

【図6】 同じく半分まで閉じた状態で示す断面図である。

【符号の説明】

1 採血管本体

3 栓部

5 陥入阻止用段部

7 キャップ

10 キャップ

12 試薬

14 ローレット

16 突条

2 開口部

4 指掛用鐔部

6 突条

9 突条

11 隙間

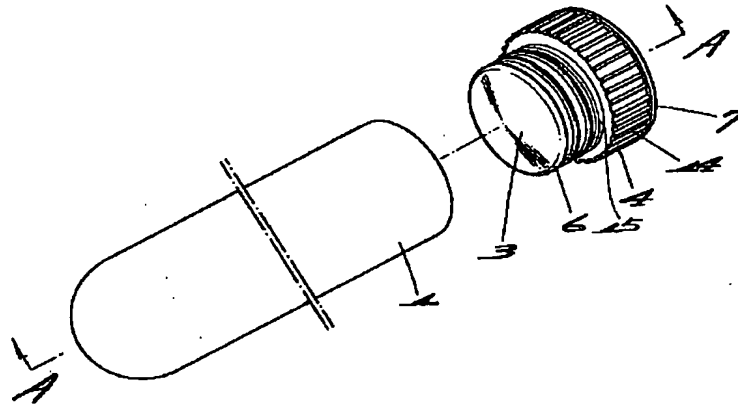
13 記入部

15 突条

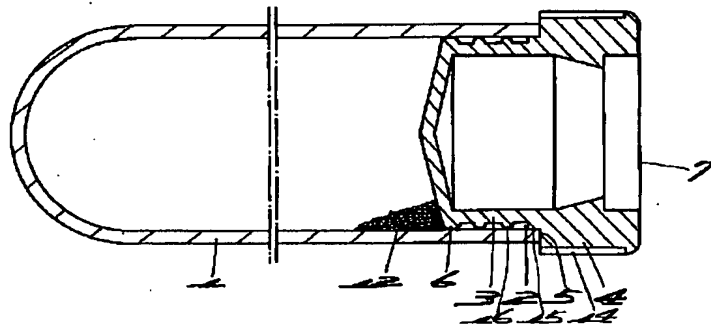
10

*

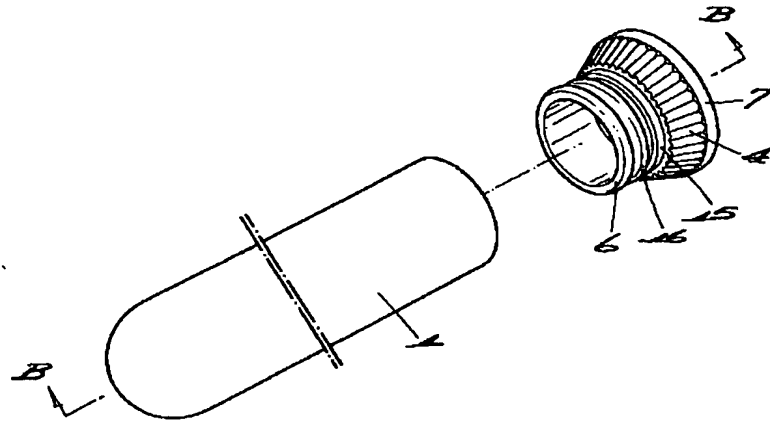
【図1】



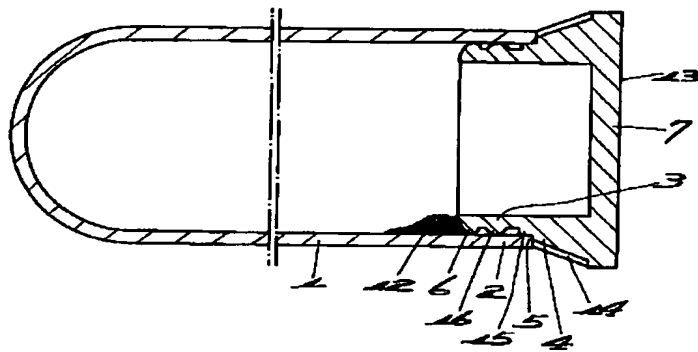
【図2】



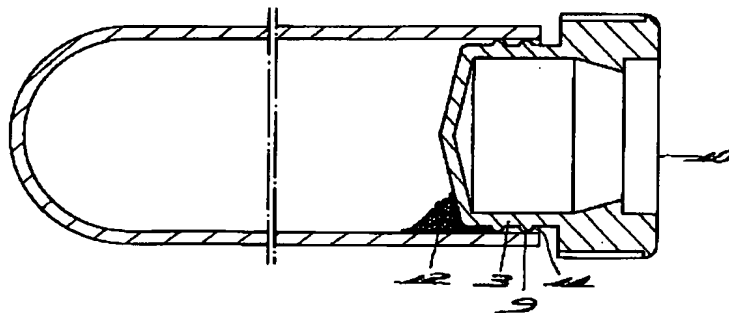
【図3】



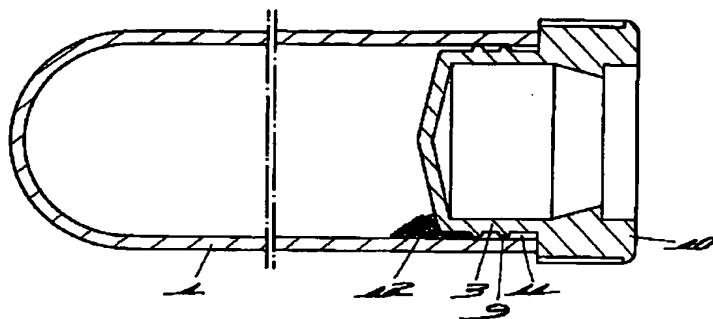
【図4】



【図6】



【図5】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

本考案はドナー瓶などと通称されている採血管（本願においては採尿管も含めていう。）に関する。

【0002】**【従来技術】**

従来、図5に示すように栓部3の外周面の最上縁より僅かに下の位置に周設した無端環状の突条9を周設したキャップ10をもつ採血管は知られている。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

上記従来技術において述べた採血管は、図6に示すように半分まで閉じた状態となってしまったときには、採血管本体1の内周面と栓部3の外周面との間の突条9より上の個所にできる隙間11の中にゴミやバイキンが入り込んでしまう、密封性も半減してしまうなどの欠陥があった。

【0004】

本考案は斯る事情に鑑み、上記隙間11の中にゴミやバイキンが入り込まないようにする工夫及び密封性が半減しないようにする工夫を施した新規の採血管を提供することを目的とするものである。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成をするために本考案採血管は、採血管本体1の開口部2内に抜挿自在の栓部3と、栓部3の上端部の外周に突設した指掛用錨状部4と、錨状部4の下面に形成した採血管本体1内への陥入阻止用段部5と、栓部3の外周面の最上縁に周設した無端環状の突条15とより構成されたキャップ7をもつものである。

【0006】**【実施例】**

図1および図2に示す本考案の第1実施例は、ポリエチレンテレフタレート

以て採血管本体1を成形し、またこれとは別個にポリエチレン材料を以て採血管本体1の開口部2内に嵌着する上端部の外周に突設した指掛用鏢状部4と、鏢状部4の下面に形成した採血管本体1内への陥入阻止用段部5とより構成したキャップ7を成形すると共に栓部3の外周面の最上縁に無端環状の突条15、同じく最下縁に無端環状の突条6を、同じく中間の位置にも無端環状の突条16を周設し、このキャップ7を上記採血管本体1に脱着可能に嵌着したものである。

【0007】

図3および図4に示す第2実施例は、ポリエチレンテレフタレートで採血管本体1を成形し、またこれとは別個にポリエチレン材料を以て採血管本体1の開口部2内に嵌着する下端開放の有天筒状の栓部3と、栓部3の上端部の外周に突設した指掛用鏢状部4と、鏢状部4の下面に形成した採血管本体1内への陥入阻止用段部5と、鏢状部4を逆さ円錐形として天面を広くすることにより設けた整理番号の記入部13とより構成したキャップ7を成形すると共に栓部3の外周面の最下縁に無端環状の突条15、同じく最下縁に無端環状の突条6を、同じく中間の位置にも無端環状の突条16を周設し、このキャップ7を上記採血管本体1に脱着可能に嵌着したものである。

尚、図中14はローレットを示す。

【0008】

【作用】

本考案に係わる採血管は採血管本体1の中に凝固促進剤（血清）、3.8%クエン酸ナトリウム（血沈）またはフッ化ナトリウム（血糖）等試薬12を適量まで入れてユーザーに提供し、これを入手したユーザーは血液を入れて検査する等の用法で供するものである。

【0009】

【考案の効果】

本考案においてキャップは前記のように採血管本体1の開口部2内に嵌着する栓部3と、栓部3の上端部の外周に突設した指掛用鏢状部4と、鏢状部4の下面に形成した採血管本体1内への陥入阻止用段部5と、栓部3の外周面の最上縁に周設した無端環状の突条15とをもつので、採血管本体1の中に入れられた試薬

の封緘機能および採取血液の封緘機能を確実になすと共にキャップ7をはめた時には段部5が採血管本体1の開口縁に係止するので、採血管本体1に対する栓部3の嵌入量が常に一定して具合がよいは勿論であるが、特に本考案において突条15は栓部3の外周面の最上縁に周設したので、第6図に示すように半分までしか閉じられない場合でも隙間11ができないものであって、ゴミやバイキンが採血管本体1の内周面と栓部3の外周面との間に入り込んでしまうことも、密封性が半減してしまうこともないものである。